

## 山野小中学校に通わせて

広島県福山市 福山市立山野小学校・中学校 保護者 秋田 由佳

私の息子が通う山野小中学校は、福山市の中心部からおよそ30キロ離れた、最北端の山間地域に位置する、山野町にある学校です。

現在小学校には児童9名、中学校には生徒9名が在籍している極小規模校です。

そのうち山野町から通っている子どもは4名です。他は地域外からなので、山野町行きの始発のバスで通っています。

※ 20分 → 7:10 → 20分  
↓  
7:30

子ども達は自然豊かな、のんびりとした環境で、のびのびと学ばせたいという理由や、自分たちの住んでいる地域の学校と合わず、探して、見学して「この学校に通いたい」と、自分で選んで来ています。

私の息子は小学三年の三学期より不登校になり、フリースクールに通っている時に山野の学校を見つけました。

地域で回ってくる回覧に『山野に来てみませんか?』というポスターが入っていました。そこに載っていた山野小学校と中学校の雰囲気良かったのでネットでも調べて息子に見せたら「見学に行ってみよう」と言いました。

極小規模校の学校は初めてでしたが、校内はきれいだし、授業の声は廊下に響き、それがとても楽しそうで、先生も穏やかで熱心、子ども達の雰囲気も良くて「なじめる」と、この子に合っていると思いました。

小学校の隣が中学校なのですが、息子は「中学校も見学したい」と自ら校長先生にお願いをして、見学させてもらいました。

帰り道に「どうして中学校も見学したの?」と尋ねると「小学校卒業したら中学校でしょ?通う事になるならどんな感じか見ておきたかったの」と答えました。

息子は「この学校に通いたい」と言い、新学期から通えるように手続きをしました。始発のバスでの通学が始まりました。

クラスは複式学級で五年生の息子と六年生の男の子一人でした。

本人が慣れる頃まで先生から一日の様子を電話で教えて下さいました。親の不安も分かってくれているんだなあ嬉しく思いました。

参観日で初めて複式の授業を見ましたが、とても楽しそうで、安心しました。

無遅刻無欠席、二学期まで頑張りすぎて疲れて一日休みました。先生から「何か学校での不満があったのですか?」と、とても心配そうな声で電話がありました。

「いえいえ、疲れたようです。学校生活に間があつたので頑張りすぎたようです。」というような内容を話した記憶があります。

先生は安堵して、「疲れがとれたらまた学校に来てねと伝えて下さい。」と無理に学校に来いとは言いませんでした。

「あ〜、こういう学校だからこの子が行くんだ」と思いました。

自分に自信のない息子は学校生活で「どうせ僕は出来ないよ！」と爆発する事もしばしばありましたが、その都度先生方は否定するのではなく、受け入れて話を聞いてすっきりするまで待っていていました。その様子を電話で教えて下さいました。

担任だけではなく、校長先生も教頭先生もどの先生にも見守って頂き、そして親身に話を聞いてくださるので相談がしやすい。どれだけ救われたか。そんな環境に感謝しました。

そして、人の影に隠れるタイプでしたが、今まで通っていた学校のように誰かが代わりにやってくれるという甘えやさぼりは出来ません。どうなるかと不安でしたが、見事に公の場で堂々と発表出来るようになりました。

通うようになって知った事ですが、放課後教室と習字の時間は地域の方が入って下さいます。今は地域の方が、他に何か出来る事はないかと考えて学校と掛け合せて下さり、小学校の金曜日の昼休憩に、地域の方が子ども達と遊んで下さる事もして下さっています。

夏休みに「鮎取り」も体験させてもらえます。地域の方が網を仕掛けて、子ども達が川の中で鮎を取ります。取った鮎は串に刺して焼いて、その場で頂きます。鮎のみならず、猪肉も焼いて下さり、BBQです。おかげさまで猪肉が食べられるようになりました。

他にも資源回収、ほたる祭り、夏祭り、運動会、コットン祭りの行事などが一緒なので下の名前で呼ばれて、地域の方との他愛ないおしゃべりや、お手伝いをしています。校外学習では山野の自然を探索したり、畑の作物を収穫させて頂いたり、色々な経験をさせてくれています。

勉強だけではなく、その子の良い所を伸ばし、苦手を克服させるように導いてくれる、自分の在り方に自信を持たせる教育をしてくれていると思います。

その『自分の在り方に自信があるから集団でも活かせる』事が分かる一つの行事が、小中合同文化祭です。

演劇のメインは中学生ですが、小学生も出演します。その小学生も何役もやります。中学生も人数が少ないので一人で裏方と役を何役もやります。

人前に入る事が苦手な子は裏方でみんなを支えたり、ナレーターをやります。役者はセリフが長いですが、アドリブを入れて笑いを誘う演技をします。

声が小さい子も翌年には大きな声を出し、覚えるのが苦手だった子はつかえながらも、でもこのセリフは絶対に全部言うぞという気持ちが伝わってきて、応援したくなります。

その文化祭の大トリは『やまびこ太鼓』です。これは小学一年生から中学三年生でピンッと合わせる太鼓です。腕もしっかり伸ばして揃わせます。後半はどんどん早くなる伝統の太鼓です。圧巻の太鼓を伝統として引き継いでいく事は、子ども達には大変な事ですが、一つになってやり遂げた達成感と自分への自信がついた事、先輩達の思いが太鼓の響きとなって、きっと引き継いでいく気持ちにさ

せるのだと思います。

一つの行事をとっても、一致団結が当たり前で、自分の在り方に自信を持たせてくれる場所だから、息子は「学校は大切な場所だ」と思えるのだと思います。何十分の一ではなく、一は一。自分の替りはいない。極小規模校だから余計にそうなのかもしれないですが、家以外の居場所の一つが学校になった事は息子にとっても大きな変化となりました。

中一の時に中国新聞のヤングスポットという欄に掲載された記事を読ませて頂きます。

### 『学校行事で一致団結』

僕は、一致団結とは、たくさんの人が一つの目標に向かって力を合わせる事だと考えます。でも、以前はこの言葉が好きではありませんでした。一致団結を掲げても、何もしない人がいたからです。

例えば、文化祭の劇です。役者のほかに、大道具、小道具、ナレーター、照明係など、いろいろな役割があります。しかし大きい集団になると、一人一役を分担しても人が余ってしまい、何もしなくてもいい人ができてしまいます。

しかし、僕たちの山野小中は児童と生徒を合わせても10人しかいないため、一人が何役もしないと文化祭は成り立ちません。先

児童生徒だけではなく、先輩達も一緒になって、まさに一致団結して文化祭を創り上げます。山野に来てから僕は、一致団結という言葉が好きになりました。

少人数だからこそ体験できることがたくさんあるので、ぜひ山野小中を見に来てください。

一つの行事をとっても、一致団結が当たり前で、自分に自信を持たせてくれる場所だから息子はそう書いたのかもしれない。

学校はのんびりしている雰囲気ですが、やる事はきちんとやるし、出来る努力をする。しっかり先生方や地域の方にサポートされながらやり遂げる。

五年生からでしたが、上級生がきちんとそれらが出来ていたので、良いお手本になっていました。今まで見てきた上級生、我が子に下級生、規則にしばられなくても規則違反がありません。他の学校のように何もかもが同じでなくてはならない、という雰囲気もなく、厳しく規制されていないのに、当たり前のことが当たり前として出来る子に育っています。

消極的だった子も、自然と積極的になったという内容も同じくヤングスポットに掲載されたので読ませて頂きます。

### 『友の支えで前向きに』

「小さい頃は人見知りだったんだよ」と、周りからよく言われるし、自分自身もそう思います。

小さい頃、家族や親せきの人の前でしか話せませんでした。保育所では友達がたくさんいたけれど、やはり話すことはできませんでした。

自分でもなぜなのかは分かりません。半分は恥ずかしいし、もう半分は分からない。お遊戯会では演技はしたけれど、友達がセリフを言ってくれました。友達にはずいぶん助けてもらいました。2回転校し、人見知りは続いていました。5年生で山野小に3回目の転校をしました。山野小と山野中は少人数だけど、みんな優しく居心地がいいです。地域の方、先生方がしっかりと支えて下さいま

す。

私は今、授業中にはたくさん発表ができ、友達と楽しく話せるようになりました。支えてもらった多くの方々に感謝しています。これからも前向きに頑張っていくつもりです。

彼女は本当に消極的だったの？と思うくらいみんなと楽しそうに過ごしています。

それからもう一人の記事も読ませて頂きます。

#### 『一期一会 進学して実感』

「一期一会」とは、一生に一度しかない大切な出会いや縁のことだと知りました。

私はこの言葉を初めて聞いた時は、お隣さんとはたまたま家が隣になっただけで、縁があったとは思っていませんでした。

仲の悪い子がいたとして、縁があったという言葉で片付けるには、もやもやしたものが残っていました。

4月、小学校の同級生とはちがう中学校に進学した私は、今でも「遊ぶ友達は限られている」と思っています。しかし、その友達とは「大切な出会いや縁があったんだな」と、一期一会を意識するようになりました。

私の周りには、大切な出会いや縁がある人でいっぱいです。中でも、通っている山野中のすべてが大切です。私の心に大きな成長をもたらしてくれる所だと信じています。

一人一人を大切に作る教育とはこういう事なんだと感じます。個を尊重し育てると、自信を持ち、自らを肯定出来るようになる。

生きていくのにとっても大切な事です。まさか学校という名が付く場所で気づかされるとは思っていませんでした。

集団での教育を重視する教育より、大事なのは自分を肯定できる環境や教育の質、受け方だと思います。

小規模校出身だと社会に出て上手くやっていくのに苦労するような事も言われますが、卒業生たちは高校で大規模校に通っていますが、小規模校出身だからといって、上手く立ち回れないようだと言った事はありません。

小中の間に自己肯定感を持たせておけば、高校やその先の社会への対応は、自ずと出来ると思います。

その子の性格によりけりでしょうが、大人になるまでの大切な時期に自己肯定感をしっかり持たせる事が出来たら、挫折しても立ち直りは早いかもしれません。

もっとシンプルに、あなたは一人の人間で、大切な存在だという事が伝わるような環境で子どもは学んだほうが良いと思います。

子育ては人育て。我が子が不登校の時に気付いた言葉です。一人ではなかなかのエネルギーの要る事ですが、私ではつけてあげる事のできない生きる力や、子どもの伸びしろをさらに伸ばしてくれることを、今は学校がしてくれています。

山野小中学校のコンセプトは『小さな学校で大きな物語を創ろう』です。

学校に見学に行った時に校長先生から聞いた言葉です。この言葉に惹かれて私は「この学校に通わせたい」と思いました。

子ども達は、先生方や地域の方からサポートされて、自分の「大きな物語」を創っています。本人たちは大きな物語を創っているんだという感覚はないでしょう。

これから先のいつかの時に「あの時あの学校を選んで良かった。」と、どこかで思ってくれたらいいなと思いながら、親として学校とともに成長を見守っています。

今、この環境にたどり着けた事を私は本当に幸せだと思います。

長くなりましたが、ご清聴頂き、有難うございました。